

潮音寺だより

第 248 号
平成 16 年 6 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856

〈ホームページ〉 <http://www.ne.jp/asahi/choonji/hamo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11

道どう
心しん
恒こころ
不ふ
退たい

【出典】善導大師
『往生礼讃』三宝帰敬



鶴田偉子作

「負けないで」

欲望という
誘惑は
手招きし

「落ち着いて」

思慮のない
癩癩は
友を遠ざけ

「励げめよ」

怠おろそかれば
チャンスが
逃げてゆく

「求めよ」

迷うことなく
ほとけの道を
歩みゆけ

創作童話

たらの首輪

「お母さん。たらちゃんが、たらちゃんか。」

「ああ、ふるえているじゃない。「歩けないみたい。痛いんだよ。きつくて、苦しいんだよ。変だよ、絶対」変だよ。」

「バスタオルを持ってきて。」

「どうするの?」

「大きい病院に連れて行くの。」

「ぼくは、タオルにくるまれ、車に乗せられた。以前のぼくだったら、だれよりも真っ先に、車に跳び乗ったものだが、今は、それができない。体全体がさび付いてしまったように、あしを動かそうにも動かせないのだ。」

「ねえ、たらちゃん、治るよね。死んだりしないよね。」

「大丈夫よ。きつと大丈夫よ。」

それから、とれへらうい時間がたっただろうが、病院に着いてからのぼくは、最悪だった。みんなして押さえつけられ、口をむりやり開けられたり、針を何本も刺されたり、わけの分からない痛さと苦しさと、体がぼろぼろに砕けるかと思っただけだった。

「検査の結果は、……。」

「良くなかったです。」

「うそ、うそでしょ。だって、少し関節の具合が悪いだけだっていってたもの。薬だって、毎日飲ませていったの。」

「うう、そんなはずないわよ。」

「しかし、分かってるけど、体中にガンがまわっているという事です。今生きていることが不思議なくらい、状態は悪いです。」

お嬢さんと、お母さんが、ぼくのために泣いてくれた。あの時の泣き声は、忘れることができない。つらかったけれど、うれしかった。いく粒も、いく粒もぼくの顔に、体に温かい涙が落ちて伝わった。

でも、背中にチクツとした痛みのもと、その温がさは感じられなくなり、あれほど苦しかったこれまでの痛みが、うそのように消えてゆくのが分かった。そして、みるみる浮くように体が軽くなり、ぼくの体は、しだいに、ぼくの体でなくなっていくた。

空

仏教語の「空」とは何もないことか、虚無であるという意味とはちよつと違います。

空の思想には、言葉や思想は事実をありのままに示し得ないという考えがあります。現実には時間的な世界であつて、現象は絶えず変化しているのですが、言葉による表現は静止的です。たとえば、「この花は白い」といいますが、その花の白さはいつまでもとまらず、色あせていきます。したがつて言葉で表現した直後に、その言葉は死んだものになってしまう、そつと消えるのです。

流れゆく世界を流れるままに、その世界を観する自分自身も、静

止的に見る誤りに陥らないように

する、固定的実体がない無常の世界を観する、こゝに「一切皆空」、空の立場があります。

住職通信

分ければ減る
これは物だ
分けても減らぬ
これは心だ



ます。

空の思想は、大乘仏教興起のころ、『中論』を著した龍樹によつて大成され

ました。また、『般若心経』の中の「色即是空、空即是色」という語句は、大変有名です。(『仏教辞書』)

雑記

▼表紙



檀家の大森正子様より、妹さんがお作りになったパンフレットを頂戴しました。パンフレットというのは、小麦粉や樹脂

の粘土で花や葉の形を作り、絵の具で彩色したものだそうです。本当に、本物の花と見まちがえるほどです。

▼感謝

先月号で、彩色灯明のご寄付の願いをいたしました。早速に、青木秀郎様より頂戴いたしました。また、他にも、複数ご申し出を頂いています。感謝、感謝であります。百万円ほどかかりますので、募集継続中です。

▼たらの首輪

先頃、インターネットを通じて、愛犬を亡くされた方から、心の相談を受けました。当方にも犬がいますので、犬になつたつもりで、童話を作ってみました。

▼鮮やかに赤き幸せ

サクラランボ 沐魚